

# よりそって

『愛の手で みんなで支える 住みよい地域』

小諸市民生・児童委員協議会 広報部会

わたし ここにいるよ

～ 第7回～

楽しみながら

< 御影地区 >

4月。美南ガ丘小学校新一年生の下校時の見守りや、校内の草とりを行いました。

コロナ禍で、私は押しつぶされそうな気持ちと、人と人の繋がりの薄さの中での、子ども達との出会いは新鮮であり、かわいくもあり、いとおしく思いました。子ども達の明るさにとっても勇気づけられました。このかけがえの無い子ども

達を、地域全体で守っていきたくと思いました。



一緒に下校中

ささやかな活動ではあるけれど、多くの大人たちが学校とのつながりを身近に感じ、深く関わりを持ってたらなと思うのです。

御影区 民生・児童委員 関 正枝

子ども達との草取り



## “集いの場”

紺屋町の支え合い活動は、主に3つの取り組みをしています。月の八日に開催する「八の会」は年十回を計画し、“お茶会”“給食会”“健康達人区らぶ”などです。女性中心の賑やかで楽しい会となっています。

そして、「紺屋町ガーデン」と「みんなの広場(仮称)」作りは、若い世代と共同で花壇やベンチを作り、夏の草むしり作業で世代間の情報交流の場となっています。

「紺屋町ガーデン」は、道の四つ角にあり、近隣の町の人たちも散歩の途中で足を止め、花壇の花を愛でています。

これらの活動は、町内の人々が日常的に気軽に集える「集いの場」作りを目指しています。コロナ禍が一段落し、「みんなの広場」にみんなが集い、楽しいイベントを開ける日が来るのを心待ちにしています。 紺屋町区 民生・児童委員 小林 基



健康の三つの柱

今夏も満開



## “こども食堂”ってどんなところ？

民生・児童委員をお引き受けして3期目になります。地域のお年寄りのことは月2回の友愛訪問で分かりますが、児童のことは同居の孫でもない限り、ふれあいの機会がほとんどありません。ましてやコロナの渦中、児童の姿を見なくなり私達の活動の場も減りました。

さて、「信州こども食堂 in 小諸」は平成28年2月より月に一度、相生会館にてボランティアの大人たちが食事を作り、高校生以下の生徒や児童と一緒に食べ、時には遊びや学習の場として活用されます。



心を込めて

「こども食堂」の目的は各地域で異なりここでは『食を通じて三世代交流で市民同士が支え・助け合ふれ合いの循環社会のま

ちづくりの実現』を目指しています。地域の大人との出会い、体験や学習を通じて自分に自信をもつ場になること。そして孤立する親の心のよりどころにもなり、さらにはスタッフも子ども達の笑顔で自分自身が生きる喜びを得る場にもなっています。

子ども達に関わり見守る立場の民生・児童委員は、こうした居場所が増えれば、活動の幅が広まり、子ども達によりそい成長を見守ることができるのではないかと考えています。

出かけて来てね。楽しいよ。  
待ってるね。

高齢者福祉部会では、「私がわたしらしく豊かに安心して暮らせる地域をめざして」と題し研修を行いました。まずは現在の小諸市の状況を学び、高齢者の健康づくりと、いつまでも元気で暮らせる地域づくりが大切だと実感しました。私が住んでいる和田地区も、高齢化が進んだり車いす生活の方がおられたりするなど、誰にでもやってくる現実ではないかと感じました。自分に何かお手伝いすることはないかと思いつながら、支

## 周りの人の支えがあってこそ

え合う社会が大切になってくると痛感しました。

「人は一人では生きていけない。周りの人の支えがあってこそ生きていける。」自分も支える一人になっていきたいと少し思いました。地域を築いてこられた大先輩の皆様にも多くのことを教えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。安心して暮らせる地域づくりを目指して、少しでも力になりたいと願っています。

高齢者福祉部会 和田区民生・児童委員 小平 妙子

冬でも脱水症。気をつけて！！

クイズの  
答え ○



頼もしいスタッフと食材達